

フードバンク狛江 ニュースレター



発行：NPO 法人フードバンク狛江 TEL/FAX 03-5497-0272 mail : info@fb-komae.org

2021食の分かち合いで子育て応援

～今夏、新たに就学援助受給世帯への食料支援を始めます！～



コロナ禍2年目の今春3月のひとり親子育て応援は、昨年の1.5倍102世帯298人(高校生以下子ども数167人)に、世帯平均約12kg(お米3kg)の食品をお届けできました。

前号でお知らせしたように、ひとり親家庭への学校給食のない時期の食品提供を、狛江市の教育委員会の協力で、就学援助を受けて子育てするふたり親家庭にも対象を広げ実施します。親御さんへの励ましと子どもたちが少しでも笑顔になれるよう頑張っていきます。

*就学援助:経済的理由で教育費の支払が困難な児童・生徒の保護者に対し、給食費や学用品の一部を援助する制度

柏原教育長と面談して協力を要請

4月の緊急事態宣言発出前、教育委員会の柏原教育長と理事長・副理事長が面談。ひとり親食料支援の報告から、食品を受取る以上にこの活動が子育てする親御さんの精神的な支えになっていることを知っていただき、就学援助受給世帯への支援を激励いただきました。



【活動報告】

・3月

- 1日 春休みひとり親子育て応援 申込み開始(10日締切)
- 12日 こま YELL と二者協議
- 14日 春休みひとり親子育て応援 食品受け渡し、発送終了

・4月

- 7日 松原狛江市長と面談
- 20日 柏原教育長と面談
- 23日 福祉相談課、こま YELL と三者協議

・5月

- 22日 第5回通常総会開催

【今後の予定】

・6月

- 18日 就学援助決定通知に同封する食料支援申込案内を提出

・7月

- 初旬 食の分かち合いで子育て応援 食糧支援申込受付・発送開始

🍴 食品の寄贈・寄付をお願いします！ 🍴

夏の食料支援の案内は2回に分けて、狛江市から7月に発送される就学援助受給決定通知に同封、そして8月の児童扶養手当現況届提出案内発送時にも同封します。申し込みは一世帯一回で、8月中旬までに食品を届けられるよう準備を進めます。想定必要食品量は1.5トン～2トン(お米440kg)、また経費約35万円(宅配便代12万円等)が必要となります。皆様からの食品寄贈・寄付など、ご支援をよろしくお願いいたします。

市長面談で子育て世帯への食料支援への協力を要請

～狛江市との食料支援連携協定の見直しへ～

4月7日、松原市長と面談して、市の施設や備品のフードバンクへの貸与に改めてお礼を伝えました。また、コロナ禍での子育て世帯への食料支援を行政施策とするよう要望してきました。具体的な回答はありませんでしたが、自立支援相談窓口への倍増した食品依頼への対応やひとり親子育て応援への取組みに感謝の言葉をいただき、さらに、就学援助世帯への支援に取り組むにあたり、2017年に交わした狛江市との食料支援連携協定の見直しを求めました。4月23日には三者協議で食料支援連携協定の市側の提案を受けて、フードバンク側の案を提出し協議を開始しています。



第5回通常総会を開催、新役員を選出

5月22日、6名の理事(2名はオンライン参加)が西野川事務所に集まり、吉田栄氏を議長に正会員の82%の委任状により、議案の承認を行いました。

また、2021年度の新理事に中島信子氏を選出し、理事8名、監事2名で新役員体制を決定しました。

(議案など詳細はホームページ参照)

理事長:田中妙幸

副理事長:吉田栄、中島信子(新任)

理事:田中究、清水信之、霜村美千代、林有子、内山恵一

監事:岡村透純、河西信美



副理事長就任にあたって

～中島信子(汐文社『八月のひかり』著者)～



文筆を業にして、半世紀の歳月が過ぎた。子供時代に母から受けた虐待から(いつか子供の心を大人に伝える担い手になりたい)の想いが児童文学作家への道になった。描いてきた子供達はほとんどがマイノリティの子供達である。幸せな子は描けなかったのだ。

大学等の講師、両親の介護、夫の永眠等で二十年間筆を置きはしなかったが、真摯に子供を描けるゆとりはなかった。が、常に社会の片隅で必死に生きる子供達への想いは持っていた。そして、現代の間とも言える貧困と闘う子供達を描こうと思った時、フードバンクの扉を叩いていた。「見せない貧困」そこで出会った田中妙幸氏のこの言葉は私の胸に強く描けを迫り、「八月のひかり」の原動力となった。

私はどの日々も子供の姿を追ってきた。しかし、それは間接的であった。私自身の先が見える今、直接的に子供の幸せを願えは天の声と思っている。使命かもしれない。



理事長コラム

理事長 田中妙幸

ノーベル平和賞を受賞した WFP によると、世界ではコロナの影響もあり極度の食料不安を抱える人は2億7千万人と推計し、食料危機が到来する可能性に警鐘を鳴らしている。2021年1月発刊の井出留美氏の著書「食料危機」、副題「パンデミック、バツタ、食品ロス」(PHP 親書)にはコロナ禍の世界がどうなっているかが丁寧な取材で描かれている。

食品ロスに関しては、むしろロックダウンした英・伊・仏、日本でも減っていると書いている。家庭では買い物制限されたことで「あるもので賄おう」という意識が生まれ無駄や廃棄が減っているという事らしい。

他方、「現在も世界では2億6千万人の子どもが給食を食べることが出来ていない。」日本においても130以上の生活困窮世帯アンケート調査によれば、コロナ休校中に4割近くの子供が1日1食を強いられ、学校給食で栄養を補っていた子どもたちが3か月間で痩せてしまった。」とも取材をもとに書かれている。

ひとり親子育て応援で、直接受取時に「食品は何が役に立ちますか?」と言う声掛けに「ごはんさえあればいい…」という親もいた。また数人の親に「お菓子は買えないので売り場に行かないようにしている。」とも聞いた。アンケートにも「お菓子はなくても生きて行けます。でもあると気持ちが豊かになる。」と書かれていた。井出留美氏の本を読みなおし、その言葉の背景にあるひとり親の「生きている現実」を覚えてもらうことになった。



3月以降、寄付・食品寄贈でご支援いただいた皆さま、本当にありがとうございました!

■食品の寄贈(敬称略):(株)ローソン/(株)ビオクラ食養/三色パステルアート/おてらおやつクラブ華嚴院(町田)/東京すずらん会/天理教江東分教会/大木製菓(株)/堀口珈琲/ひだまりセンター教育研究所/(株)JALUX/JA 全農経営企画部/狛江三田会/明治ホールディングス(株)/狛江市安心安全課/コープみらい染地店/(株)KURADASHI/(株)StockBase/猪方学童保育所/松原学童保育所/フードバンク調布/フードバンクかわさき/平松花菜子、内藤英幸、他、企業・市民の皆さまより約1.5トン。

■助成金:4/16赤い羽根中央共同募金会「with コロナ草の根活動応援助成」

■お金の寄付:延べ36名の皆さまから総額約30万円の寄付を頂戴しました。

緊急事態宣言中も
感染対策を徹底し開所しています

西野川事務所
毎週月曜・木曜13時～16時

市庁舎作業所
毎週月曜・木曜13時～15時

よろしく
お願い
いたします



NPO 法人 フードバンク狛江 事務所・倉庫

〒201-0001 狛江市西野川 1-16-7

開所日: 毎週月曜・木曜 13時～17時

当面の間 13時～16時に時短で開所しています。

Facebook: 「フードバンク狛江」で検索

現金や振り込みだけでなく、
クレジット決済でも寄付を
受け付けています。



2021 年度会員・賛助会員募集中!